

NEWS RELEASE

2019年9月17日

スリランカで「すらら」全国算数計算コンテストを開催 全国 290 名の頂点が決定！

日本の小・中・高校生ならびに海外の小学生向けの対話型 ICT 教材開発・提供を通じ教育支援を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）は、文部科学省の「日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Port ニッポン）」の一環として、スリランカの首都・コロンボで、すらら全国ます計算コンテスト（Surala BOX Calculation Math Contest）を開催しました。



全国 290 名の頂点に立った、
ピニディ・ウプニャとすらら塾の先生。



すらら全国ます計算コンテストの
上位入賞者と来賓ゲスト。

株式会社すららネットにより海外の小学生向けに開発された、「Surala Ninja!」はインタラクティブなアニメーションを通じて加減乗除の四則計算を楽しく学べる e-ラーニングシステムです。現在、スリランカ向けのシンハラ語版、インドネシア向けのインドネシア語版、また、主にインドで活用されている英語版があります。

このたび、すららネットが主催したすらら全国ます計算コンテストへは、合計 290 名の小学生が参加しました。算数教室の「すらら JUKU」や学校で行われる「すらら授業」で「Surala Ninja!」を学習する生徒に加えて、スリランカ全国の小学 1 年生～6 年生を対象に主に招待校の代表生徒が参加する、全国規模の本コンテストは、予選はスリランカの主要 6 都市で、決勝は首都・コロンボで実施されました。決勝には在スリランカ日本大使館、スリランカ教育省、スリランカ学校関係者、更にはスリランカのメディアが参加し、大き

NEWS RELEASE

な盛り上がりを見せました。

実力伯仲する予選を勝ち抜き、コンテストの頂点に立ったのは、ピニディ・ウプニャ (Ms. Pinidi Upunya) です。ピニディはコロombo近郊のすらら JUKU (塾) タラヘナ校に通う小学 5 年生で、100 ます計算で加減乗除の四則計算の「正確さ」と「速さ」を競う決勝では、掛け算の問題を、正答率 100%、計算スピード 2 分 9 秒、という記録を打ち出しました。コンテストで優勝できた秘訣を聞くと、「ずっと Surala Ninja! で学習してきたから」という声を寄せてくれました。なお、「Surala Ninja!」の中で学べる日本発祥の「100 ます計算」のメソッドは、スリランカの公教育にも取り入れられており、広く知られています。

また、全国ます計算コンテスト決勝の後には、すららフェスティバルを開催し、700 名以上の生徒と保護者が参加しました。すららフェスティバルを通じて、スリランカの生徒たちは算数の概念を取り入れた様々なゲームや日本の伝統的な縁日ゲームを体験し、学ぶことの楽しさを実感したり、日本の文化に触れたりしました。



算数のコンセプトを取り入れたゲームや縁日ゲーム（輪投げ）で楽しむスリランカの生徒達

スリランカにおいては、JICA プロジェクトとして 2014 年から現地のマイクロファイナンスの組織「女性銀行」と連携し、教育訓練を受けた BOP 層の女性が小学生にシンハラ語で算数を教える算数塾の「Surala Juku」をスタートしました。その後、2017 年より学習塾の形態だけでなく、私立学校やインターナショナルスクールでも導入されるなど学校分野での活用も広がっています。更に、2019 年 5 月にはコロombo郊外に直営校「Surala e-learning Lab」を開塾しました。

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念とし、一人一人のペースや学力レベルに合わせて学習を進められるオーダーメイド型の対話式 ICT 教材「すらら」を約 800 の塾、約 160 の学校に提供しています。発達障がいや学習障がい、不登校、経済的困窮世帯を含む 66,000 人以上の生徒に学習の機会を提供するなど、日本お

NEWS RELEASE

よび海外での教育課題の解決を図ることで成長を続け、代表的な **EdTech** スタートアップ企業として 2017 年 12 月には東証マザーズに上場しました。また、学習コンテンツの多言語化、ローカライズを行い、JICA 民間連携事業によるスリランカでの教育格差是正プロジェクト、JICA 中小企業海外展開支援によるインドネシアにおける産学連携での学力達成度強化プロジェクトの採択を契機に、海外での事業展開を開始しています。

すららネットは今後も、世界中の教育格差という社会課題を最先端技術で解決し、教育格差の根絶に向け貢献していきます。